

## 第13回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2012年2月28日(火) 13:00~16:00

場所: 経済産業省別館5階526号共用会議室

### 出席者

#### 委員長

尾池和夫 財団法人国際高等研究所 所長

#### 副委員長

町田 洋 日本第四紀学会(東京都立大学 名誉教授)

#### 委員(五十音順)

伊藤和明 NPO法人防災情報機構 会長  
菊地俊夫 日本地理学会(首都大学東京 教授)  
小泉武栄 東京学芸大学 教授  
鹿野久男 財団法人国立公園協会 研究員  
高木秀雄 日本地質学会(早稲田大学 教授)  
佃 栄吉 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表  
中川和之 日本地震学会(時事通信社 山形支局長)  
中田節也 日本火山学会(東京大学地震研究所 教授)  
成田 賢 全国地質調査業協会連合会 会長

### オブザーバー

外務省広報文化交流部国際文化協力室	門倉俊明
外務省広報文化交流部国際文化協力室	中秋真太郎
文部科学省国際統括官付ユネスコ第3係	揚田智恵美
文化庁文化財部記念物課文化財調査官	本間 暁
林野庁森林整備部研究・保全課環境保全専門官	櫻井 知
林野庁国有林野部経営企画課環境保護調整係長	北 亮子
経済産業省産業技術環境局知の基盤課課長補佐	高橋 潔
国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課課長補佐	越智英人
観光庁観光地域振興部観光資源課ニューツーリズム推進官	井上史子
環境省自然環境局国立公園課事業係	速水香奈
環境省自然環境局国立公園課事業係	櫻庭佑輔
内閣府政策統括官(防災担当)付 火山対策担当主査	新原俊樹

### 事務局

産業技術総合研究所 加藤 碩一  
産業技術総合研究所 利光 誠一  
産業技術総合研究所 下川 浩一  
産業技術総合研究所 渡辺 真人  
産業技術総合研究所 及川 輝樹

産業技術総合研究所 吉田清香  
産業技術総合研究所 菅家亜希子  
産業技術総合研究所 濱崎聡志  
産業技術総合研究所 吉川敏之

日本ジオパークネットワーク 齊藤清一  
アーク写本 広瀬美緒子

#### 配付資料

- 資料1 第12回日本ジオパーク委員会 議事録(案)
- 資料2 ジオパークの最近の動向
- 資料3 採点シート(案)
- 資料4 日本ジオパーク申請書作成手引き(案)
- 資料5 現地調査チェックリスト(案)
- 資料6 申請公募の呼びかけ文面(案)
- 資料7 再認定審査方針(案)
- 資料8 再認定審査の概要(案)
- 資料9 2012年審査スケジュール(案)
- 別添資料 重点調査項目(案)

#### 他機関配付資料

内閣府 パンフレット「内閣府火山防災エキスパート制度」  
日本ジオパークネットワーク  
紹介パンフレット、協賛会員募集のチラシ、及び「JGN 報告事項」

13:00 開会

利光事務局長より開会宣言。

### 【委員長挨拶】

尾池委員長より、ジオパークという言葉が定着してきたところに、再認定審査ということで第2段階に着手することになった、という旨の挨拶がなされた。

### 【資料確認】

事務局より、配付資料1-9、別添資料（重点調査項目）、内閣府からの資料、及び日本ジオパークネットワークのパンフレット並びに資料（JGN 報告事項）の確認が行われた。

### 【第12回委員会議事録確認】（資料1）

お気づきの点があったら指摘してほしい。問題がなければ承認。

### 【委員の交代と再任手続きについて】

事務局より、委員の任期は2年で、3月末に切れるが再任を妨げないこと、及び鹿野委員から委員交代の申し出があったことを報告。また、事務局長より、3月末までに委員の委嘱手続きを行い、その際、謝金の減額をお願いすることをお知らせした。鹿野委員から、ご自身が非常に勉強になったことと、今後も国立公園関係の者を是非後任にお願いしたい旨、退任の挨拶があった。

### 【ジオパークの最近の動向に関する報告】（資料2）

資料にもとづき、事務局から説明。室戸 GGN 認定時の報道は、山陰海岸のときよりも反響があった。また、2月15日から3日間、秩父ジオパークで、第1回 JGN 全国研修会が行われ、非常に有意義な会議であった。JGN 事務局では、今後、年に2-3回、このような研修会を開く予定とのことで、委員の方にも積極的にご参加いただきたい。

- ・2月18日に伊奈市と国立青少年自然の家の共催で、ジオパーク交流集会在開催されたので、追加していただきたい。

### 【内閣府からのお知らせ】

内閣府より、配付資料「内閣府火山防災エキスパート制度」の説明があった。この制度は、火山防災の実務担当者が火山防災エキスパートとして、全国の火山の火山防災対策推進の支援を行うという取り組み。防災のみではなく、火山の恵みを理解することが持続的な活動推進のために大切である。ジオパークの推進もこの活動の大きな柱の一つとしてとらえている。折に触れてこの制度を活用していただきたい。

- ・今度、磐梯山で火山防災講演会を開く予定。

### 【日本ジオパークネットワーク（JGN）活動報告】

JGN 事務局より、資料「JGN 報告事項」に基づき説明。まず、JGN の正会員（日本ジオパーク）20 地域、準会員 11 地域を含めて、関係地域は計 50 地域、関係自治体数は 130 に達する。これは全国市町村数の 1 割近くに及び、このままでは制御不能になるのではないかと危惧している。今年以降も日本ジオパークの申請予定が控えている。次に、JGN を紹介する一般向けのパンフレットが完成し、協賛会員の募集（チラシ）も開始した。3 番目に、JGN の大会

や研修会を実施しており、是非、委員の方に参加をお願いし、ご助言いただきたい。費用は可能な限り JGN で負担したい。2012 年の第 3 回 JGN 大会は室戸で開催の予定。4 番目の「申し合わせ事項の追加」では、「日本ジオパーク認定地域から GGN に申請できる」というルールに加え、前年度の事前相談会への参加を義務づけることを検討している。最後に、「その他の取り組み・検討事項」では、JGN 学術部会の設置等を 5 月の島原の通常総会で決定する予定。

- ・委員は協賛会員になれるのか。  
是非なっただきたい。会員には特典（雑誌・サービス〈宿泊・入館料割引〉など）もある。
- ・パンフレット 2 ページ目の「世界ジオパークと世界遺産の違い」の記述に間違いがある。  
事前に相談してほしかった。  
来年度編集し直すのでそのとき直したい。今回は 5 千部作成した。
- ・5 千部ならシールを貼るなどの対応ができる。
- ・鹿野委員に具体的な修正案のメモを作ってもらいたい。
- ・学術部会について、地震学会ではワーキングを作って準備をしている。今までのジオパークでは地震学会が直接貢献していないので学術部会でどんなことをやるのか教えてほしい。
- ・地震学会のニューズレターにジオパークの特集が組まれる予定。その中の巻頭言で、地震学者は地震学をやるからには、まずジオパークへ行って地球のことを学ぶべきと書いた。  
学術部会については、5 月の連合大会で準備会合のようなものを計画している。

#### 【今後の JGC の審査方針等について】（資料 3-6）

事務局より、資料に沿って説明。資料 3-5 は昨年度から変えていない。資料 6 は募集に際しての文案。

- ・「申請書作成手引き」の最初に、主要なテーマを明示的に書くようにしては。
- ・地域のメインテーマを最初に明記するということが。名称の中に特徴を入れたもの（黒曜石など）があるが、その辺を整理したほうがよい。
- ・採点シートの冒頭にある「ジオパークと保全」を分けて、「ジオパークの名称とテーマ」の見出しを入れてはどうか。
- ・名称は行政的に重要になる場合がある。
- ・売り文句で予算を取ってきた等の個々の背景は何えばよい。「名称とテーマ」が適切かどうかを見ておく。
- ・最初の項目の中で上の二つを「ジオパークの名称とテーマ」として独立させる。  
点数は？
- ・配点はあまり変えたくない。
- ・「ジオパークの名称とテーマ」の中で、最初の全体のテーマを 10 点に、次のサブテーマを 5 点にしては？
- ・2 つで 15 点は低いのでは？申請する側はもっと重要と考えている。例えば今年も湯沢が変わった名前を用意している。  
実は各項目の点数の内訳は公開していない。
- ・あまり変な名前はチェックの対象になる。最初の 2 項目を「ジオパークの名称とテーマ」15 点とし、残りを「ジオサイトと保全」55 点とする。

- ・ 生物・生態系のことも追加して欲しい。「ジオサイトと保全」の最初の「ジオが人間に与える恵みと災い…」の中か？
- ・ ここには「人間の生活」と書いてあるが、「生態系」のほうがよい。
- ・ 「ジオが人間に与える恵みと災い」と「人間の生活」で重複している。「人間の生活」を「文化や生態系」としてはどうか？
- ・ では、「歴史や文化や生態系」とする。
- ・ ユネスコのコメントに、ハイライトにすべき項目として気候変化と火山の二つがあった。それを意識するように、単語として入っていた方がよい。
- ・ 歴史の中に含まれないか？
- ・ ジオというと大地のことを意識するが、それを支える水と大気、気候、生物の関係を意識するようなジオサイト、ストーリーが必要だということ。  
書き直しが必要だが、表現が難しい。
- ・ 地圏、水圏、気圏、生物圏、それらをまとめてジオと呼んでいるので、ジオ＝地面ではないことを示せばよい。
- ・ エコツーリズムに近づく。
- ・ エコツーリズムに対する行政の理解は良いが、それとジオも同じと思っている。
- ・ ダブっているから同じでも良いのでは？
- ・ やはりエコツーリズムの中にジオの概念が抜けている。
- ・ エコにはジオの要素が薄い。歴史と文化に自然史まで含めては？
- ・ 「自然史」では理解されにくい。火山・気候変動などとダイレクトに言った方がわかりやすいと思う。
- ・ GGN に natural history は出てくるか？  
直接は出てこない。History of the earth など。
- ・ 歴史というと一般には人間の歴史になってしまう。
- ・ 自然史はジオに含まれるという認識で良いのでは。
- ・ 「ジオが人間に与える恵と災いを、生態系や歴史や文化と関連づけて考えるジオサイト、ストーリー」としたい。
- ・ 「管理体制、運営体制」の6番目に「中期的（3-5年）な整備計画と予算計画」とあり、そこに「収支計画」を入れてはどうか。
- ・ 集合体の運営なので難しい。  
認定の後、活動が思うように進まないこともあるので、集合体とはいっても、持続的な運営を担保するためにもしっかり準備してほしい。
- ・ あまり具体的に書かれても、それを言い訳に使われたりすると困る。
- ・ 書こうとすると規模が縮小する。
- ・ 1、2年後の活動状況をチェックし、改善するのに参照できて良い。
- ・ 申請段階では難しい。再認定審査の中では良いと思う。
- ・ 書類審査では難しいこともあるので、現地審査で聞いてきて、最終的には委員会で判断というこれまでのやり方で仕方ないところ。
- ・ 主旨は良くわかる。文書で提出を求めなくてもチェックはする。チェックリストには載っている？  
「管理組織、運営体制」の3番目に「中期計画、長期計画、予算計画について説明を求める。」とある。
- ・ 「ジオが人間に与える恵みと災い…」の項目の位置を下へ移しては？

- ・ストーリーを重視して、前に置いておくことは意味がある。
  - ・実際にはこの部分が各地域とも弱い。
  - ・最後のほうの「地域の持続的な発展とジオツーリズム」で、その最初の項目「ジオツアーの実施状況」を、「ジオツアーの企画と実施状況」と修正したらどうか。
  - ・計画だけではだめで実績が大事だということでこうなった。GGN ではかなり実績を重視しているようだ。
  - ・数だけ上がってくるが、中身が吟味できないという悩みがある。クオリティーも評価できる基準が欲しい。
  - ・「実施状況」の中とみなして、質と量をチェックする。
  - ・手引きの「5.1 ジオツアーの実績と今後の計画」のところに、企画の目的やサイトのストーリーに合った工夫をしているかを書くように指示しては？
  - ・あまりそこを重視すると、ストーリーの方を直し始める恐れがある。
  - ・巡検ばかりをやっているのをジオツアーだと称しているのは違うと思う。
  - ・同じジオツアーでも、少人数に絞った高度なツアーを組んでいるとすれば量では評価できないので、「内容」をいれる？
- 資料4の5.1に「内容」を入れ、「ジオツアーの実績・内容と今後の計画」とするとともに、資料5の4番目の最初を、「ジオツアーの実績と内容を確認する」と修正する。
- ・今まではテーマの似たものも出てきたので、同じようなテーマの他のジオパークとは違う、その地域独自の売りが何かということを意識しているか知りたい。
  - ・地域独自の特徴だけではなく、他との関連性をきちんと理解しているかを問うことも必要と思われる。
  - ・実際にどのジオパークを見学したかということをチェックリストに入れる。
- 事務局により、手引きとチェックリストの修正箇所をプロジェクターで説明。
- ・手引きの1に「1-3全体のテーマ」を追加し、タイトルを「地域の確認」「ジオパークの全体像」とする。
  - ・他地域との関連性はどこに入れるか。1-4として含めるか？
  - ・3の解説中に含める方がよいのでは？3-1の後に「既存のジオパークと比較した上での特徴と関連性についても述べる。」を加える。
  - ・採点シートのリストの最後にある「防護」は「防災」でよい。

14:30-14:40 [ 休憩 ]

- ・チェックリストにも「見学に行った他のジオパーク」を入れては？またハードの整備では看板の中身の作り方なども入れておく必要がある。関連する組織との連携に際し、サポートできることもある。
- ・準会員の学習する場は？  
大会の中の分科会や研修会等、JGNの主催するものには参加義務がある。
- ・チェックリストの4に「他のジオパークの取り組みを積極的に学ぼうとしているか」確かめることを追加。
- ・呼びかけ文面は？これまで特に困ったことはなかったので、このままとしたい。

**【再認定審査方針及び今年度の審査について】**（資料7,8）

事務局より資料について説明し、昨年からの変更（GGN 認定地域も JGC が再審査する）について補足を行った。

- ・ 今年の再認定審査は何カ所？  
5カ所で、そのうち世界ジオパークになっているものが3カ所。
- ・ 方針は公開するにしても、早めに各ジオパークに宿題を認識してもらいたい。概要に書かれている内容だけで伝わるか不安。
- ・ 資料7は公表した方がよい（資料7,8は公表が前提）。地域ごとに求めるものが違うので、資料8の1(イ)の中に、「その他委員会が求めるもの」と追加しておいては？
- ・ 資料7の4の2番目「重要で早急に解決を要する問題点」とは何か？
- ・ 観光客の安全が保たれない所の改善など明瞭なものはあるが。
- ・ 首長の交代など、継続に問題が出てくる場合がある。また、急を要さないが改善してほしいこともある。  
基本的にどの地域にも改善を求めている。
- ・ 資料8の1(ア)「地域活性化にどのような影響があったか」というのは評価が難しい。別添の冒頭に、「ジオパークの成功をどう考えるか」という問いも入れているところ。
- ・ 少なくともいい影響があれば書いてほしい。
- ・ 多少、観光客の伸びが悪くても、良い活動は評価したい。質の問題。
- ・ 「影響」を「寄与」としては？
- ・ プラス思考でそのように修正する。ところで、資料8の1(ア)で問題点を書く欄は？前に「今後の課題と解決策」を入れる。
- ・ 「JGCからの指摘事項に対する改善状況」を追加してほしい。
- ・ JGCに対する要求を聞いてもよい。
- ・ JGNとして再認定審査に期待するものは？  
JGN事務局会議での情報交換によると、認定時の勢いから下がる例が多くなっている。4年目に際して厳しくチェックしていただけると、これからの活動に生かせる。
- ・ 「ジオサイトの保全・保護」の状況も、資料8の1(ア)中に明示的に確認すべき。努力しているところはアピールもできる。
- ・ 今後の活動計画は？
- ・ 「今後の課題と解決策」に含まれるのでは？
- ・ しだいに当初の勢いがなくなっていく所が多いので、今後の目標を聞くべき。
- ・ 再認定審査の主旨はさらにエンカレッジすることにある。差分を見てどれだけ進歩したかをきちんと評価していくという理念が伝わるとよい。
- ・ 最初出した計画の変更点を出してもらい、進化の程度をチェックする。資料8の1(ア)の次に「基本計画の見直し点」を入れる。
- ・ 順番（重点項目）も考える必要がある。
- ・ 現地の人が言いたい特記事項を書く欄も必要。
- ・ 10ページで収まらないのでは。  
添付資料は別にする。
- ・ スケジュールを確認したい。  
再認定審査のアナウンス（資料7,8）は、議事録とは別に早く出したい。再認定審査書類の提出締め切りについては議論していただきたい。
- ・ 9-11月の現地審査から逆算すると8月末締め切りか。4月初旬に再認定審査要領公開とし、3/20頃までに資料7,8を確定する。

- ・ 再認定審査が増えてくると大変では。新規申請を絞ることも考える？
- ・ 大変な部分は JGN の学術部会等に協力してもらう。  
学術部会で人材を育てる話はしている。昨年事務局に参加した人材はすぐにでも活用していただける。
- ・ 元委員にもお手伝いいただきたい。
- ・ 重点調査項目については？
- ・ 3/20 までに議論したいが、ここでお気づきの点があれば伺う。
- ・ ジオパークの中で、被災した例が既にある。どう伝えたか、知りたい。
- ・ 自然災害から何を学んだか。霧島の噴火の際は、事前に地元のシンポジウムで関係者が名刺交換していたため、連絡がスムーズにとれ、それがジオパークの効果だという認識が広がった。
- ・ 別添の「各地域共通」の中で、各地域が具体的に書けるようにしておくとうい。
- ・ 運営組織の状況で、複数の自治体による連携・事務局体制が気になる。
- ・ 温度差を解決する必要はない。突出したところが引っ張っていけばよい。  
島原ジオパークで3市の温度差を「どう解消するか」を「どう考えるか」に修正。
- ・ 南アルプスは先日の伊那市でのイベントでジオパークの活動が再認識された。  
南アルプスジオパークについては、山梨県側では早川町が熱心。静岡県では伊豆半島の活動に熱が入っており、南アルプスには関心が向いていない。長野県と山梨県でできないかという方向性が少し出てきている。
- ・ 南アルプスの静岡県側はほとんどが静岡市で、そこが動かないと難しいが、山への関心が低い。
- ・ 有珠山は、事務局の交代の影響や大会開催の効果で、うまくいっている。
- ・ アポイ岳は世界を目指すのか。
- ・ 様似町の役場には「目指せ世界」という垂れ幕があった。地元を盛り上げる意味ではいいのかもしれない。
- ・ 日本の活動をしっかりやってもらいたい。
- ・ ジオパークと名乗る限りは世界的な活動なので、世界のジオパークの枠組みの中で日本の特性を出して日本式のをどんどん進めればよい。
- ・ 世界を目指すことは、世界の中での独自性を認識し、ユネスコの活動の推進者になるということだという意識が必要。
- ・ 事務局でまとめている宿題との照らし合わせもやってほしい。この重点調査項目は公表しない。

#### 【2012年 JGC 審査スケジュールについて】（資料9）

資料にもとづき、事務局より説明。議論の過程で一部追加した。

新規申請の数は制限しないということでよいか。さらに増える可能性があるが。

- ・ 盛り上がっているのは結構なこと、増えて困る分にはかまわないのでは。
- ・ JGN の体制強化にも期待したい。
- ・ ジオといのは基本的に多様性の文化なので、いろいろな人が出てきてコントロールが効かなくなるのが本来の姿。
- ・ いままでは国内の GGN だけからサポートしてもらったが、再認定審査には他の日本ジオパークからの応援も期待できるのでは？

再認定審査を通った地域の協力を要請するのはひとつのやり方。

- ・ 次回は 5/20 に委員会。必ず出席を。
- ・ JGN の学術部会の準備状況は？  
これから具体案を検討するので、ご意見をいただきたい。
- ・ 委員会のメンバーとは別？  
別で、アドバイザーとして出ていただきたい。  
学術部会は JGC 委員とは別メンバーでと考えている。

#### その他

- ・ 島原大会の準備状況について担当委員と事務局より報告。250 件の講演。最終締め切りは 4 月中旬（1 ヶ月前）。ユネスコや GGN からの予算的支援がないので、JGC 委員にぜひ寄付をお願いしたい。
- ・ Eder 氏も来る。
- ・ GGN 執行部 12 人の招待経費や GGN 新役員への記念品代等、すべて現地負担である。
- ・ GGN のガイドラインの中に Geohazard を入れてもらえるきっかけになればよい。
- ・ 執行部がどういう形で GGN を盛り上げ引っ張っていかようとしているのかについて、情報交換を行う場としての意義が大きく、日本の役割を強調するいい機会にしたい。

16:00 閉会